



## 紀州 熊野古道 中辺路

既に大峰奥駈と小辺路を済ませており、「伊勢へ七度、熊野へ三度……」のように三度目の熊野古道。山道としては大雲取越・小雲取越を含む中辺路（なかへち）が残るルートである。東京マラソン向けの長距離耐久の名目で、大雲取越（おおぐもとりこぐもとりごえ）・小雲取越（こぐもとりごえ）を1日で越し、日暮れに追われて2日間と午前中で70kmほどの中辺路を辿ることができた。

【日程】

2016年2月11-13日(木-土)

【メンバー】

佐藤

【グレード】

1級上

【地形図】

新宮・紀伊大野・本宮・伏拝・発心門・皆地・栗栖川・紀伊田辺

【記】佐藤

1月11日(木) : 晴

きのくに線の車窓から、朝日が照らす鏡のような太洋が飛び込んでくる。大峰奥駈と小辺路での印象は「熊野三千六百峰という山の海」だが、こたびは本当の海。朝の陽の射す海の果てに補陀落浄土があるとされ、生きて戻らぬ補陀落渡海の舟を出したのだろうか、今朝の明るさにその重苦しさは微塵もない。那智駅からバスに乗り換え熊野那智大社へ。「馬にて参れば苦行ならず」なのだが、1日で大雲取越・小雲取越を越すためにやむを得ない。とはいえ那智大社の滝のご神体には参る。近年ここを登ったクライマーが逮捕された事件があって、登れるものかオプザベーションする自分が罰当たりにも思える。ご神体は各所から見え「この大滝を海上から見る魚師たちは、女性の隠所を意味することばで言う。山なかを垂直に落ちるこの輝きは、黒潮に乗ってやってきた人々の目をひき、そこに聖なる力が宿ると見られたにちがいない」と郷土誌にあるように、「滝はここでは神である(アンドレ・マルロー)」を思い出さずにはおれない。

青岸渡寺の裏手から古道を歩き始めて1時間余、舟見茶屋跡から見下ろす熊野灘は複雑な海岸線を成して青く「絶景筆紙に盡しがたし」と案内版にあるのも誇張ではない。色川辻あたりまでは、亡者と出会う、「ダル(ひだる神)がつく」というが、晴天の午前を通過とした計画を喜んだ。

地蔵茶屋跡からは越前峠の大雲取越最高点871mまで登り、胴切坂と呼ばれる広い石畳を下っていくが、この坂を登りにとるとすると飽きるだろう。次の円座石(わろうだいし)は熊野三山の梵字が掘り込んであるが、権現の構造は出羽三山に似て、東北で熊野信仰が盛んなのもかくやと思えた。

大雲取越を小口集落に降りて小雲取越の登り口を探すが、人家の軒先を縫って入るためわかりにくいし、計画は中辺路のルートを一般とは逆に歩いているため、道標もガイドも逆に読まなければならないが、苔むした杉木立が主の大雲取越に対し、小雲取越はシダの緑に広葉樹の道もあって和ませる。陽も傾き山の影が濃くなりはじめた頃に展望地の百間ぐらからは、小辺路でよく見た果無山脈などが見渡せる。下れば熊野川が見え始め、日暮れかける17時に請川にからくも降りた。

万一遅くなったときのため、旅館は素泊まりにしているため、食料を買い込んで2km先の宿から迎えを乞う。川湯温泉のバス停の名にもなっている亀屋の前の川原、大塔川の底から湧く源泉の露天混浴は尻焼温泉より大規模で、酒もって入れればよかったなあ思いながら月を眺めて長湯に



浸った。

### 1月12日（金）：曇

湯といえば、小栗判官蘇生の湯と伝えられる「つぼ湯」のある湯の峰温泉へ。そこから大日越でひと山越えて熊野本宮大社へ参り、福永さんの病気平癒を祈願する。熊野は蘇りの地といわれ神徳を期するが、小栗はその最古のイメージキャラクターとっていいのだろう、

本宮大社から発心門王子手前までは道も広く高低差も少なく、王子といわれる昔参詣途上で儀礼を行う場所はいま休息所になり、軽装の観光客でも短い区間なら歩きやすくなっている。発心門王子から先はその逆で、出会う人たちは少なくなり登山の装備だ。三越峠548mまでの長い登りは、大雲取越小雲取越を核心と思っていた身には伏兵。峠の先、仲人茶屋跡と蛇形地藏間が2011年の台風被害で迂回ルートになっているため時間が読めず、この迂回路に鹿の食害を防ぐ門とネットが張ってあったが、「ルートを一般とは逆に歩いている」ため「入口」には説明がなく、「出口」に鹿避け表示があったり、途中迂回路のため道標が少ないため(他は500m間隔)、到着時間に一抹の不安を覚えたりもした。

仲人茶屋跡からは古道に復する。草鞋峠592mには「この付近の峠は蛭降峠百八丁といわれ……」と山ビルに悩まされたとあるが、いまは2月、寄生対象である里が近づいてくる。継桜王子の辺りのとがの木茶屋などが道中にある野中地区から「乙女の寝顔」と呼ばれている半作嶺(はんさみね)の稜線を眺める。青みをおびたシルエットは確かに魅力的に空に浮いていた。宿場として栄えた近露(ちかつゆ)の民宿は、若い夫婦が営むツルツルの湯の宿で飯もうまい。聞けば山小屋的機能も果たし、道迷い客の救援に出たりすることもあるそうだ。

### 1月13日（土）：曇のち雨

予報では雨が心配され、同宿のふたりは一般ルートで本宮に向かうのを逡巡しているが、こちらは紀州田辺の市街地方面、中辺路山間地の入り口滝尻まで13kmを歩けばいいので気が楽だ。日置川を渡り盆地の里近露を発つと、古道は稜線を登り谷に降りるを幾たびか繰り返す。この周辺では「三体月伝説」というのがあり、陰暦11月23日に三つの月が同時に出現したというものだが、満月は15日、23日は下弦の月。月待信仰が二十三夜講で柳田国男は「年中行事覚書」で「二十三夜の月だけは三体になって山を離れるということを知り、まさかと思ったことは私にもあるが、これは今宵の月が弥陀の三尊のお姿をお示しなされるといって、信じている者が古くからあったためである」とあり熊野は強かったのだろうが、円座石のようにここでも「三」が共通する。

眺望の良い高原地区の長い尾根を下ると、中辺路山岳への出入り口・滝尻王子だ。降りたと思ったら、それまでぐずぐずしていた空がワッと泣き出した。あわてて熊野古道館に飛び込む。ここでガイドの方に話を聞きながら紀伊田辺へのバスを待った。

### **【行程】**

2/11 熊野那智大社 (9:30) ～舟見茶屋跡 (10:45) ～地藏茶屋跡 (11:40) ～越前峠 (12:15)



～円座石 (13:20) ～ 以上・大雲取越～小口～小和瀬渡し場跡 (13:55) 以降・小雲取越～桜茶屋跡 (14:45) ～百間ぐら (15:50) ～請川 (17:00)

2/12 川湯温泉 (7:30) ～湯の峰温泉 (8:30) ～熊野本宮大社 (9:30) ～発心門王子 (11:30)

～三越峠 (12:35) ～迂回路 (13:40～14:15) ～近露 (16:30)

2/13 近露 (7:15) ～十丈王子 (9:05) ～滝尻王子 (11:00)